

3.3怒りの24時間減産闘争をうちぬく



動労千葉

82.3.5

No.984

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六・八) 局内 七二〇七

81.3.3ジェットストへの大量不当処分弾劾！

81.3.3スト一周年、三里塚反合春闘勝利 3.6集会に想いどぎ総結集

動労千葉一三〇〇の煮えたる怒りが、政府・支配階級と国鉄当局に叩きつけられた！
三月一日、国鉄当局が わが動労千葉の81・3ジェット燃料貨車輸送阻止5日間ストライキ闘争に
対して極めて政治的な大量不当処分を強行発令してきたことに対し、われわれは直ちに全職場での
全組合員の総決起をもって、断固たる抗議―粉砕の闘いに決起した。

動労千葉闘争委員会「闘争指令第四号」を発出すると共に、満腔の怒りを込めた「抗議声明」
を発した。(3月1日) 全職場は、この闘争指令のもとに一糸乱れず直ちに決起し、3月1
日～2日～3日と怒りも新たに、断固たる抗議闘争をうちぬき、とりわけ3月3日は終日千葉管内
はもとより首都圏国電Ⅱ総武・中央各線をも怒りの24時間減産闘争でゆるがした。

3月1日、全職場で一斉に抗議闘争

3月2日、「不当処分粉砕・総決起集会」 かちとる

この大量不当処分こそ、極めて露骨な動労千葉
破壊攻撃である。全職場は直ちに反撃に立ち、3
月1日全職場での「抗議集会」ががちとられ、全
員の怒りを込めた「抗議電」が国鉄総裁・高木と
千鉄管理局長・片岡の両名にあてて打電されてい
った。さらに全職場における「対現場長抗議交渉」
がもたれ、生の怒りの声が叩きつけられた。とり
わけ81・3スト拠点として先頭に立ったが故に政
治的な不当報復処分として、支部長に対する「停
職」攻撃を加えられた成田支部・津田沼支部・千
葉運転区支部では、組合員の大半が処分を受けた
事ともあわせ、激しい怒りが当局に叩きつけられ
た。「81・3スト一周年」を期して全国から「動
労千葉のように闘おう」と多くの労働者が千葉へ
かけつけようとしている「3・6全国労働者集会」
の直前を狙って、又、激烈に開始された三里塚二
期決戦―国鉄反合闘争―春闘の開始期を狙っての
この政治的攻撃は、しかしながら逆に支配者共が
いかにわが動労千葉一三〇〇の闘いとその波及力
に恐怖しているかの逆証明でもある。全組合員は
怒りも新たに、81・3の地平を確信も高く、堅持
―発展させて闘い続けることを誓って、2日Ⅱ総
決起集会、3日Ⅱ減産闘争へと総決起していった。

冒頭あいさつに立った関川委員長は、「当局が
この時期に発令を強行してきた事は極めて政治的
だ。国鉄三五体制攻撃の中で、当局に全面協力を
けじめた国労中央と「働こう運動」まで組合員に
強制するに至った動労『本部』―そういう中で
当局がこの上ない憎悪をもって動労千葉破壊のた
めにかけてきた攻撃である。81・3闘争の地平を
堅持・発展させ、被処分者を守り、一層強固な組
織をつくり上げ闘いぬいていこう」と、怒りをこ
めて決意を表明した。

続いて、吉岡組織部長より基調が提起され、具
体的闘いの方針が提起された。
すなわち、「今回の不当処分の強行発令は、①
労働運動の産報化攻撃と対決し生産点から反撃に
立つ動労千葉への組織破壊攻撃であり、②労働連
帯を叩きつぶすための三里塚二期攻撃の重要な一
環であり、③軍事大国化・改憲攻撃と闘う全人民
に総屈服を強要する攻撃である。だからこそ権力
(裏面へ続く)

決起集会、3日Ⅱ減産闘争へと総決起していった。

81・3ジェットスト一周年、三里塚二期着工阻止 右翼労戦「統一」粉碎、82反合・春闘勝利

3・6全国労働者集会

明日

■基調 中野 洋 書記長
■各界・労組あいさつ
三里塚・芝山連合空港反対同盟
西ドイツフランクフルト空港反対運動代表
■とき 三月六日(出) 午後五時半
■ところ 習志野文化ホール 国電津田沼駅南口下車徒歩一分
■主催 国鉄千葉動力車労働組合

東京駅から津田沼駅まで

総武快速30分

